開催地 高知会場

				ı		А.					
見出し	地	震で心配な	こと、困るこ	٤-	対 策	自分		行政	_	その時	被災後
	アパート マンション の住民の関心が薄い		老人所帯への支援組織	近所づきあいをしない人が多い	避難マンションがわかるような仕組みをつくる 行政と県民の命、最後は自分で守る。		154%	1344	711.5	COM	放火设
住民同士の 交流の必要性	民間高層マンション の家主が不在なの で交渉が難しい	地域ぐるみの孤立が心配	津波からの避難であ あるが、高齢過疎地域であり助け合って避難するのが困難	町内会として7/7の NHKの放送みました か。個人的、プライ パシーで問題で、組 織か?(ママ)	特に高齢者の災害の経験談を聞べきである						
	近所づきあいが薄い	近所のコミュニケー ションがない	マンションのため地域とのコミュニケーションがない								
安全避難路の 確保	避難場所が本当に 安全かどうか心配	公共の避難場所がない	避難場所の設定が 不備	一時避難場所が近くにない	・公共避難所の設置 避難時に高いマンションや学校に逃げた場合、窓ガラスを壊した。基準は?						
	避難場所では何が 行われ、何ができな いのか		低層(平屋)所帯の 近くの高層建物へ の避難を可能に								
	聞き取りにもN防災 無線	正い情報を得られるかどうか心配	情報入手がとても難しい	放送設備がない (町内に)							
	る方にいち早く救援を どのようにして 公担が多いが互いにど	放送が聞き取りにく	災害情報 (予報)を 正確に知りたい	道路が狭い (避難路の確保が難 しい)							
確性	家族と連絡が取れ ないと困る	家族や近所の方の 安否の有無の確認 問題									
	津波による水害孤 立化	マンションの上階部 に取り残されてしま う	津波による浸水 孤立	津波と山津波が一 緒にきそうで心配	住宅の耐震の確保						
自然災害	土砂崩れが心配	津波のあと孤立化してしまう	土地の液状化現象 が心配								
ハード面	高潮堤にひびが 入っている	本当に砂防堤が有効かどうか心配	海岸、ゼロメー Hル 地帯の防波堤(周辺 に団地が出来たが) の寿命は県として安 全か?								
構造物が心配	ガラス多用の建物 が多いので心配	道路に面するブロック塀等の安全性	マンションがオート ロックで開かない								
公共設備の対 策が必要	ライフラインの確保 ができるかど <i>う</i> か	太陽灯の設置がないので夜の明かりが心配	地震発生後の衛生 面が心配	ガスがパイプライン 化されているので心 配	小 中 高 大 学生の防災訓練を 七輪と炭を防災用品で備えている						
ライフライン	地震のあ <i>と</i> 水は大 丈夫か										

開催地

高知会場 2 班

вші	111	= オルロム	- L E 7 -	- L	対 策	ı	進 だ)(l	1 :	_
見出し		震で心配な	こと、困る。	_	対 束	自分	地域	行政	今から	その時	被災後
公助	マップがあれば心の 準備もできる	れ 水害 土砂崩れにより道路 が寸断 孤立する	落石による道路の	消火の手段、人の問題	危険地帯のPR あらかじめ危険場所を検討しておく理解が必要 士石流の危険の広報の充実 地域に合った開発(工事) 開発の規制、強化 公共事業の優先度をつける尺度をもつ						
	消防車などの進入 路が十分でなく火災 のとき心配	動ができない									
			自分の目で見る	避難場所がない	・地域で災害について話し合う 町内会で防災リーダーを 10人 くらいつくる 避難場所を明確にする (行政による周知、マークなどでわかりやす						
	不法者の流入	正し、情報が得られない		れない	自主防災組織の立上げ 避難場所(安全、生活?)区別する 研数場でのでか作成 自主防災組織の確立 町内会の組織の強化 町内会の班単位で連絡表をつくっておく 自主防災組織の立上げと共通認識を持つ 意識 家族 地域 自主防災組織の実体化 (地震に備えて、地震が起きてから実働できる)						
共助	所?)へ移動することができない	地域で何ができるのか? ただ避難するだけで いいのか 役割	くなる								
		かない		高齢化により独居老人が多くその連絡は?(古い家が多い)	家族で避難場所を話し合う						
	転石が多くある		マスコミ ヘリ問題(ホバリング 時のローター音)	近所に老人ホーム、 老人病院が多く。高 齢者の避難の手立 てが必要							
	給水ポイン Hにおける H L L の問題	役所の壁									

開催地 <u>高知会場</u> <u>3 班</u>

							誰が			1112		
見出し	地	震で心配な	こと、困るこ	:	対 策		地域		今から		被災後	
避難場所	避難場所にどんな 物資が準備されて いるのか不明	避難場所が在る か?	どこが安全?	避難所の無い地区 のゼロ化	復興予算の確保 ・リボルビング方式の予算編成 避難場所のより近くへ避難時間の短縮(半減 目標)							
	昼間家族の居場所が把握しづらい	家族の生死の確認	近くに安全な場所がどこにあるか	避難所(第6小)の老 朽化	民間新築の利用 大型建物 火災の地域消火設備装備 組織の充実							
	す高知県統一デザインも認識されていないのでは自身も恥ずかしい 初めて	示類がない 避難場所を認識して いる人は少ないので は	避難所は夜は入れ るのか心配	ペットを連れて避難 所に行けないの か?								
	避難所での生活で耐えられるか不安!(含プライバシー)	行政の避難場所は 住民の意見を聞い ていない 小学校・中学校エト セトラ										
生命を守れるか (自分・家族・近	医者の搬送 (患者の配送は無 理)	社会的弱者の救済対策をどの様になればいいのかわからない	逃げているのか、ま だ中にいるのかわ からない	家屋の倒壊	意識を高める いさという時に若い力を取り入れられないか (たとえば、中、高校生の協力を得る) 地域で、学校で、家庭で 地域で訓練、住民の把握							
所 親類) ケガ 病人の搬送の問題と受入可能な病院名を	古い家が回りに多いので壊れる可能性あり	家の倒壊から家族 の救出	救出活動を地域でできるか		生命 前震活用ガタガタときたら逃げる 前震 本震 強い突き上げ、イス・テーブル のガタガタ音 本震 震度5以上 逃げる時間をロスする行為はしない 社会弱者の援助は難い							
事前に知らせる 事					人命教助犬を地域に一匹 防災エキスパート制度 地区内公務員に(簡単な)応急医療教育						1	
	ライフラインが断た れた時、情報が得ら れる?		情報は? 停電、電話不通・・・ 南海地震ということ がわかるのか	衣食住、すぐに手に 入れることが可能か どうか	・ 道路脇に砂利を置く 簡易 イレを準備しているか・ スーパー開放(費用/公費)							
職場と自宅	職場と家庭が別の 場合、発生時の対 応	住地域と職場地域と の連携が心配	等が心配	町内会組織はある が防災時の連絡が 本当にあるかが心 配だ	被害減少化についてプロセスで検討 県民は応分の負担 (労働、時間、/ウハウ等)							
	マスコミのヘリの騒音が救出を妨げた?				効果のある事業の継続							
	お金を引き出せない 場合、買い物はどう するのか	高知市はゼロメート ル地域 浸水について	震害	防犯対策でどの様 な対策がとれるか 例えば食品、日用 品の略奪	事業の効果測定 資産の補強対策の推進 自主防災組織の推進 未結成地区のゼロ化							
	防災訓練に参加したいが、町内単位でやってほしい											

開催地

高知会場 4 班

						誰 が い つ					
見出し	地	震で心配な	こと、困るこ	٤ -	対 策		世 /		_	その時	
防災組織	隣の顔が見えない 着手順位を如何に決め るのか (水、飲料、救護、排	織があるが、全員に	組織間の連携は市 のどこそこで可能か (有線、無線の集中 場所)		自主防災の組織の大きさ (小学校区?町内会、区域・・)線引き 他地域との連絡 お助け人のリストが出来るの 日頃のつきあい 会社員に訓練に参加してもらうために日当を 出す						
建物	泄、弱者、子どもお助 け人リストなどの情報 収集 : 古い民家の倒壊	古い家が多いので 倒壊により道路が塞 がれる	液状化により建物が 倒壊する		・補強 家具の転倒防止 耐震診断、補強補助金を増やす						
土砂災害	山間部の為、土砂 災害が心配				・危険地域の法面補強 軟弱地盤の強化						
情報	津波がどこまで来るのか知りたい	家族の安否の確認	~	通信手段の確保	携帯の災害伝言ダイヤルの活用 各地区ごとの放送設備の設置 防災 消防・アマチュア無線の合同ロール コール 視乱 し使用不能にならない情報伝達のシス テムをつくる						
	堤防の決壊、浸水	堤防決壊による水	沈下の恐れ		・ラジオ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
水害	独居の方の安否確	流立する 孤立する 弱者への対応	高齢者の避難が難	病人の避難が難し	民生委員の活用						
弱者	認を入の多さ	高齢者が取り残される		l I	(幼児、視聴覚傷害、外人、要needのリスト						
		12- a 19888 + 4a H	目体加力的数据以及	R放4号が主力 シガの	- 198 版を掲載に <u>た</u> の日でたわりに回						
避難先ルート	からない	どこへ避難すれば いいのか分からない	がわからない	職場が市中心部の 住民が多いので家 に帰ってくるルート が水没している可能 性が高い							
道路	家屋倒壊で道が塞がり避難が難しくなる	災害後の道路事情 が特に不安	道路の沈下		水没しない幹線道路の整備						
ライフライン	食も含めたライフラインの確保	ガスの確保	飲み水の確保	特に夜間時では停電による不安	配給ルートの明示(水、排泄、医療情報、衣料) 雨水の貯蓄(ドレなどへの利用) 公園 空き地の地面の下にドレを作ってお 仮設 ドレパックを集会所に備蓄 簡易 ドレの普及	<					
313313	断水した時のインの対策	A del - Th			手動式の発電機						
食料	当面の食料、水の確保	食料の確保 (薬、排泄、医療)	居住地域は水没しない と思うが(蒔絵台ニュー タウンの場合)、飲食物 の補給ルートの確保が 難しい		・地域ごとに備蓄倉庫の様なものを作る ・地域で食料倉庫を増設する・食料の備蓄 ・スーパー等の利用・自分で買い貯める ・スーパー、コンピニ等との協定 ・ベットボトレ(飲み水)の備蓄 保存食の用意	t					I